

街路樹の役割

道を歩いているときに四季の変化にふと気づくことはありませんか？春は桜やコブシ、初夏にはツツジの花、秋にはイチョウやアメリカカワウの紅葉……。街路樹は、自然にふれあう機会の少なくなった私たちに、季節の移り変わりを知らせてくれます。

また、街路樹は、夏の暑い陽ざしや車から出された排気ガス・騒音をやわらげてくれたり、車を運転しているときには、目印となったり、快適で安全な交通に役立っています。

コンクリートやアスファルトに囲まれたまちなかでは、街路樹の緑や色とりどりの花が、私たちの目をなごませ、やすらぎを与えてくれます。このように街路樹は、私たちの暮らしに欠かせない役割を数多く持っているのです。

北九州市の街路樹

北九州市では、道路の特性に合わせ、様々な樹種を植栽しています。代表的な樹種について紹介します。

欒 ケヤキ

北九州市を代表する街路樹です。灰色がかった幹はまっすぐ伸び、新緑や秋の紅葉もさることながら、逆三角形の樹形は落葉後の冬も非常に美しい姿をしています。「けやけし木」(きわだって目立つ木)から「ケヤキ」と呼ばれるようになったと言われています。



楠 クスノキ

日本常緑樹の中では最大といわれている樹木です。枝張が広い(横に大きい)ので緑陰樹として適しています。春先にいっせいに古い葉を落として新緑に変わるので、常緑樹でも非常に明るい雰囲気を持っています。



銀杏 イチョウ

秋に紅葉する街路樹の中でも代表的な樹木で、みごとな並木を作り出します。都市環境に対しても強く、円すい形の樹形は、ケヤキとはまた違う美しさをもっています。イチョウは、雌雄異株(雌木と雄木が異なる)で、「ぎんなん」は雌木に実ります。



桜 サクラ

日本を代表する花木で、古来から「花」といえば桜を意味するほど一般的な木でした。数多くの種類がありますが、市内の街路樹として使われているのはソメイヨシノがほとんどです。

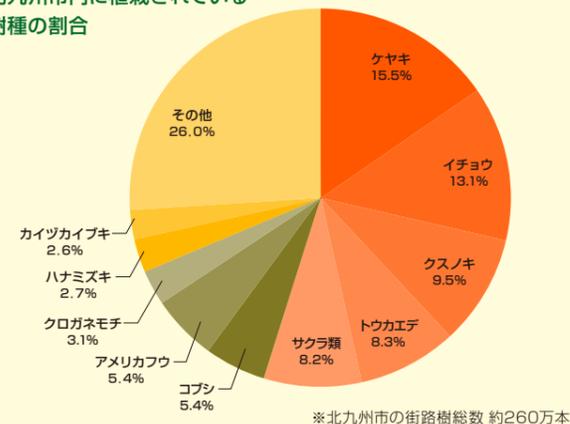


唐楓 トウカエデ

中国南部の原産で、幹はまっすぐ伸び、葉の形は3つに分かれた、いわゆる「カエデ形」をしています。秋には、紅、薄紅、黄色に紅葉します。



北九州市内に植栽されている樹種の割合



北九州オリジナル樹名板

より多くの人々が街路樹への興味や愛着を持つきっかけとなるよう、平成27年度に新たなデザインの樹名板を西日本工業大学デザイン学部情報デザイン学科の学生の皆さんたちと共働で開発しました。

新たな樹名板は、より気づかれやすく、興味を持たれるようなデザインにするため、フォントや文字サイズ、背景色などにもこだわり、イラストや豆知識などを載せた北九州市オリジナルのものになりました。現在、JR西小倉駅～リバーウォーク周辺の街路樹に設置しており、今後は対応樹種や設置個所を増やしていく予定です。



体系的な街路樹整備

道路や河川などの緑は、街並み景観を印象付けるとともに、暮らしにうるおいを与え、鳥などの生物の移動ルートとなります。市街地をこうした緑の線で結ぶ「緑のネットワーク」を形成するため、4種類の道からなる緑の街並み整備を推進しています。

もてなしのみち



多くの都市来訪者を迎える北九州市の主要幹線道路は、うるおい、やすらぎ、そしてにぎわいのあるもてなしのみちとして整備を進めています。

ふれあいのみち



広幅員の植樹帯の確保が可能な道路や、河川などとの連携によって带状の形態をもつ道路は、都市の生態系の質を高め、野生動物(鳥や昆虫など)の主要な移動ルートや生息の場となるよう、ふれあいのみちとして整備しています。

みはらしのみち



北九州市の特色である山と海の自然景観を望むことのできる幹線道路は、ビスタや眺望を生かし、みはらしのみちとして整備を進めています。

ふれあいのみち



小倉都心部の幹線道路は、商業・文化・交流などのまちの機能と街路樹の機能が一体となった回廊として整備を進めています。